星巡り

原作　サン＝テグジュペリ「星の王子さま」

脚本　伊藤貴晴

【登場人物】

アラン

ジャック

少年

男

ヒツジ

バオバブ

花

王様

うぬぼれ男

呑み助

実業家

点灯人

地理学者

キツネ

ヘビ

【０】

 嵐の中を飛行機が飛んでいる。

 アランとジャックが乗っている。

アラン 状況はどうだ

ジャック 嵐の中にいます。雨と風がひどいっす

アラン そんなことは分かってる。まだ連絡はできないのか

ジャック できないっす。交信不能っす

アラン 何とかしろ

ジャック 指に放電したっす。こっちも打電不能っす

アラン くそ、自分がどこにいるのか全然分からねえ

ジャック 先輩、まずいっすよ

アラン だからまずいのは分かってんだよ。俺はどっちに向いて飛べばいいのか知りたいんだ

ジャック それは地上の観測所に聞かないと

アラン 観測所が役立たずだから困ってるんだろ

ジャック 高度が下がってるんじゃないっすか？

アラン 下げてるつもりはねえよ

ジャック エンジンが弱ってるっす。出力が足りないっすよ

アラン 燃料切れか

ジャック 違うっす。エンジンの故障っす

アラン 何だと？

ジャック このままじゃ墜落するっす

アラン ふざけんな。こんなところで落ちてたまるか

ジャック やばいっす。エンジンが燃えそうっす

アラン 燃えろ。止まるんじゃねえ

ジャック オーバーヒートっすよ

アラン それでも飛ぶしかねえんだ

ジャック そんなの無理っす

アラン ん？

ジャック どうしたんすか？

アラン 星が見えた

ジャック え？

アラン 雲の切れ間に星が見えた。雲の上に行くぞ

ジャック ダメっすよ。これ以上エンジン酷使したら

アラン うるせえ、行くぞ

ジャック うわあ

 飛行機は雲の上に出る。

ジャック 何すか？　これ

アラン 雲の平原だ

ジャック 天国みたいっすね

アラン お前、天国見たことあるのか？

ジャック ないっすよ。でもきっとこういうとこっすよ

アラン 下は地獄だ

ジャック アラン先輩

アラン 何だ、ジャック

ジャック 俺らが行くのはどっちっすか？

アラン 地獄に決まってるだろ

ジャック そうっすね

アラン 天国の景色をよく見ておけ

ジャック 星が綺麗っすね

アラン ああ、そうだな

【１】

 砂漠。夜。

 不時着した飛行機がある。

 アランとジャックがいる。

アラン ここはどこだ？

ジャック 砂漠っす

アラン それは分かってる

ジャック そうっすね

アラン 何か見えるか？

ジャック 砂っすね。あと星っすね

アラン 他には？

ジャック 見えないっす。見渡す限り砂漠っす

アラン 飛行機は？

ジャック エンジンが壊れたっす

アラン どうして？

ジャック わかんないっす

アラン わかんないじゃねえだろ

ジャック うっす

アラン お前、整備士だろ

ジャック うっす

アラン エンジンの不調はお前の責任だろ

ジャック 仕方ないっすよ。エンジントラブルはつきものっすよ

アラン 仕方ないじゃすまねえだろ。どうするんだよ。こんな砂漠の真ん中で

ジャック （歌う）月の沙漠をはるばると〔※１〕

アラン 歌ってんじゃねえよ

ジャック 修理してみるっす

アラン 頼むぞ

 ジャックは飛行機を見にいく。

ジャック 先輩

アラン 何だ？

ジャック 直らないっすね

アラン 諦めるのが早いぞ

ジャック 無理っす

アラン 直せ

ジャック でも

アラン 直すまで飯抜きだ

ジャック 死んじゃうっすよ

アラン 直せなきゃ死ぬんだよ

ジャック そうっすね

アラン 水も食料もほとんどないんだ

ジャック やばいっすね

アラン わかったらさっさと直せ

ジャック うっす

アラン 通信はできないのか？

ジャック できないっす。ウンともスンとも言わないっす

アラン マジでヤバいな

ジャック マジヤバっすね

アラン くそ、ついてねえ

ジャック このまま死ぬんすかね？

アラン 縁起でもねえこと言うなよ

ジャック でも、直らなかったら死ぬんすよね？

アラン 家族に会えないまま死ねるかよ

ジャック 先輩、娘大好きですからね

アラン 消息不明なのは本部も分かってるんだ。通信が途絶えたところから推測して、捜索をするはずだ

ジャック 救援隊が来るんすか？

アラン 多分な

ジャック 多分っすか

アラン 仮に救援隊が来たとして、この砂漠だからな

ジャック 見つけられるっすかね？

アラン ま、見つからないだろうな

ジャック どうしてっすか？　空から捜せばすぐっすよ

アラン お前、俺があの星のどれかにいるとして、見つけられるか？

ジャック あの星のどれか？

アラン ああ

ジャック 無理っすね

アラン そういうことだ

ジャック じゃあ俺達

アラン 可能性はある。きっと助かる。そう信じよう

ジャック うっす

アラン 星が綺麗だな

ジャック そうっすね

アラン 遭難してなきゃ見られない景色だ

ジャック 男二人ってのが残念っすね

アラン お前に言われたくねえよ

 少年、登場。

少年 ねえ

アラン ん？

少年 ヒツジの絵を描いて

ジャック え？

少年 ヒツジの絵を描いて

アラン お前、どこから来た？

少年 ねえ

ジャック 君、誰？

アラン おい、お前、どこから来たんだよ？

少年 ヒツジの絵を描いてほしいんだけど

アラン 描いてやれ

ジャック 俺っすか？

アラン 他に誰がいるんだよ

ジャック 先輩、自分で描いたらいいじゃないっすか

アラン 俺は絵、描けないんだよ

ジャック 俺だって下手っすよ

アラン いいから早くしろ

ジャック うっす

 少年はジャックに紙とペンを渡す。

 ジャックは絵を描く。

ジャック どうっすか？

少年 これ何？

アラン お前、これ、バルタン星人じゃねえか〔※２〕

少年 全然ヒツジじゃないよ

ジャック ヒツジってどんなのっすか？

アラン もっともふもふしてるだろ

ジャック こんな感じっすか？

 ジャックは絵を描く。

アラン ピグモンを描くな〔※３〕

少年 さっきよりヒツジっぽくなったけど

ジャック でしょ？

アラン 全然違うだろ

ジャック ピグモンって角あるっすかね？

アラン ヒツジを描け

ジャック 俺、ウルトラ怪獣しか描けないっすよ

アラン 偏ってるな

少年 ヒツジは？

アラン 貸せ

 アランは絵を描く。

アラン ほら

少年 これは？

ジャック これ、ただの箱じゃないっすか

アラン その中にヒツジが入ってる

少年 この中に？

アラン ああ

少年 ありがとう

アラン お、おう

少年 さよなら

アラン あ、ちょっと待てよ、おい

 少年、退場。

ジャック 誰なんすかね？　あれ

アラン さあ？

【２】

 砂漠。昼。

 アランとジャックがいる。

アラン おい

ジャック 何すか？

アラン 何すか、じゃねえよ

ジャック 何すか？

アラン 働けよ

ジャック え、でも先輩がやるって言ったんじゃないですか

アラン お前ができないって言うからだろ

ジャック だって仕方ないでしょ、できないんだから

アラン だから俺が直そうとしてるんだろ

ジャック じゃあいいじゃないですか

アラン よくねえよ

ジャック 何すか？

アラン お前は何だ？

ジャック 人です

アラン 知ってるよ。人じゃなかったら何だよ

ジャック 動物占いだったらキリンっすよ

アラン 聞いてねえよ

ジャック 何すか。聞いてくださいよ

アラン 俺の話を聞け

ジャック 何すか？

アラン お前は何だよ

ジャック 人種ですか？　性別ですか？

アラン 職業だよ

ジャック 整備士っす

アラン そうだよ。整備士だよ。だったら飛行機直すのはお前の仕事だよな

ジャック そうっすね

アラン でも今は俺が直してるんだよ

ジャック あざっす

アラン あざっすじゃねえんだよ

ジャック 何すか？

アラン ちゃんと「ありがとうございます」って言え

ジャック ありがとうございます

アラン 言えるじゃねえか

ジャック あざっす

アラン そういう話じゃなくて

ジャック どういう話っすか？

アラン だから、お前の仕事を俺が代わりにやってんだよ

ジャック はい

アラン そしたらお前はどうする？

ジャック 感謝します

アラン そうだな

ジャック はい

アラン それだけか？

ジャック はい

アラン お前、埋めるぞ

ジャック 嫌っすよ。やめてください

アラン お前、俺が働いてたら手伝えよ

ジャック 手伝ってほしかったら最初からそう言ってくださいよ

アラン お前と喋ってるとイライラする

ジャック そんなことないっすよ

 男、登場。

男 こんにちは

アラン こんにちは

ジャック こんにちは

アラン 誰だ？

ジャック さあ？

男 ここはどこだ？

アラン え？

男 何にもないな

ジャック 砂漠っすからね

男 こんなところで何をしている？

ジャック 遭難したんすよ

男 遭難？

ジャック そうなんすよ

アラン 飛行機が不時着したんだ

男 飛行機？

アラン ああ

男 飛行機とは何だ？

ジャック これっす

男 これは何だ？

ジャック 飛行機っす

男 飛行機とは何だ？

ジャック これが飛行機っす

男 これは何だ？

ジャック アラン先輩、これはどうしたらいいっすかね？

アラン 空を飛ぶ乗り物だよ

男 空を飛ぶ？

アラン ああ

男 飛んでないぞ

アラン 今はな

男 飛んでみせてくれよ

アラン それができれば苦労しねえよ

男 どういうことだ？

ジャック 壊れたっす

男 じゃあ飛べないのか？

ジャック 飛べないっす

男 それは大変だな

ジャック 大変っす

男 しかし何にもない星だな。砂しかない

アラン え？

男 随分大きな星のようだが、全部こうなのか？

ジャック 全部こうなわけないっすよ。山とか海とかあるっすよ

男 人は？

ジャック 人もいるっすよ

男 そうか

アラン 何だか変な言い方をするな

男 何が？

アラン 「何にもない星」って

男 だってそうだろう。私の星は小さいが、いろんなものがあったぞ

アラン 私の星？

ジャック 私の星ってどういうことっすか？

男 今は見えないな

アラン あんた、よその星から来たのか？

男 そうだ

アラン あんた何者だ？

男 私は王様だ

 ヒツジ、登場。

ヒツジ メエ

アラン ん？

ジャック お？

ヒツジ メエ

アラン 何だこれ？

ジャック さあ？

ヒツジ メエ

アラン 何だこれ？

ジャック ヤギですかね？

ヒツジ ヒツジだよ

アラン ん？

ジャック お？

アラン 喋ったぞ

ジャック 喋ったっすね

ヒツジ 喋ったよ

アラン 何だこれ？

ジャック 何でしょうね？

ヒツジ だからヒツジだって

アラン 何でヒツジが喋るんだよ

ヒツジ いいでしょ、喋ったって

アラン よかねえよ

ヒツジ べー

アラン 何だ、てめえ

ジャック 怒っちゃダメっすよ

アラン お前は黙ってろ

ヒツジ メエ

男 これは私のヒツジだ

アラン あんたの？

ジャック かわいいヒツジっすね

アラン ちゃんとしつけろよ。食っちまうぞ

ジャック え？　食べていいんすか？

男 ダメだよ

ジャック どうしてっすか？

男 大切なヒツジなんだ

ジャック でもこの子がいいって言ったら食べていいっすよね

ヒツジ ダメだよ

ジャック 何でっすか。食べたいっす

ヒツジ やめてよ

ジャック お腹が空いたっすよ

ヒツジ 知らないよ、そんなこと

ジャック じゃあミルクが欲しいっす。どうっすか？

男 どうだ？

ヒツジ 嫌だよ、恥ずかしい

ジャック お願いっすよ

ヒツジ ミルクなんか出ないよ

ジャック どうしてっすか

男 この子はまだ幼いんだ

ジャック じゃあマトンじゃなくてラムっすね

アラン お前、食べることしか考えてないな

ジャック お腹が空いたっすよ

アラン どうしてヒツジなんか連れてるんだ？

男 これは昔、絵に描いてもらったヒツジだ

アラン 絵に描いてもらったってどういうこと？

男 そのまんまの意味だよ

ジャック よく分かんないっす

男 昔、出会った男に絵を描いてもらった。四角い箱の絵だ。その中にヒツジがいるっていうんで、もらって帰った

ジャック それ、アラン先輩が昨日描いた絵っすよね

アラン ああ、そうだな

男 昨日？

アラン 昨日、男の子が来て

男 こんな所に？

アラン ああ。それでヒツジの絵を描けって言うから描いてやった

男 でもそれはヒツジじゃなくて箱だろ

アラン いいんだよ。絵は苦手なんだ

ジャック 最初は俺が描いてたんすけど、それじゃダメって言われたっす

アラン お前の絵はヒツジじゃねえだろ

男 どんな子だった？

アラン え？

男 その男の子、どんな子だった？

アラン どんなんだった？

ジャック 十歳くらいっすかね。不思議な子でしたよ

アラン 知り合いか？

男 いや、知らない

アラン そうか。砂漠をうろうろしてる人間なんて珍しいんだけどな

男 君のことは知っている気がする

アラン え？

男 以前、どこかで会った気がする

アラン 知らないな

男 そうだな

ヒツジ 王様

男 何だ？

ヒツジ お腹空いた

男 じゃあ食べる物を探そう

ジャック え？　何かあるんすか？

男 どうだろうな。分からない

ジャック えー、そんな

アラン 水だけでもいいんだ。このままじゃ死んじまう

男 砂漠にはオアシスも井戸もある。見つけたら教えよう

アラン 本当か？

ジャック よろしくお願いしますっす

男 ああ。さ、行こう

ヒツジ メエ

 男・ヒツジ、退場。

アラン 何なんだ？　あれ

ジャック 何すかね？

【３】

 砂漠。夜。

 アランがいる。

 少年、登場。

少年 こんばんは

アラン こんばんは

少年 おじさん、何してるの？

アラン おじさんはね、遭難してるんだよ

少年 遭難？

アラン ああ

少年 そうなんだ

アラン ダジャレか？

少年 ダジャレだよ

アラン おもしろいな

少年 遭難って何？

アラン 簡単に言うと迷子だ

少年 迷子か。大人でも迷子になるの？

アラン そりゃそうだ。大人だって帰り道が分からなきゃ迷子だ

少年 おじさんの家はどこにあるの？

アラン 俺の家は海を越えた向こうだ

少年 どうやって来たの？

アラン 飛んできたんだよ

少年 じゃあ飛んで帰るの？

アラン 飛行機が直ればな

少年 飛行機？

アラン これだよ

少年 壊れたの？

アラン 修理してる

少年 早く帰れるといいね

アラン そうだな。昨日のヒツジは元気か？

少年 うん。たくさん食べるよ

アラン それはよかった

少年 バオバブを食べてもらうんだ

アラン バオバブ？

少年 僕の星にバオバブの木が生えてるから、それを食べてもらうんだ

アラン ちょっと待て。僕の星って何？

少年 あれだよ、僕の星

アラン どれ？

少年 あれ

アラン お前もよその星から来たのか

少年 お前もって何？

アラン 今日会ったおっさんもよその星から来たって言ってたぞ

少年 へえ

アラン お前の知り合いか？　「私は王様だ」って言ってる変なおっさん

少年 知らない

アラン そうか

少年 その人は王様なんだね

アラン 自分ではそう言ってたけどな

少年 僕も王様になりたいんだ

アラン え？

少年 いつか立派な王様になりたいと思ってる

アラン 王様ってのはそんな簡単になれるのか？

少年 だから努力しなくちゃね

アラン そういう意味じゃないんだけどな

少年 ヒツジはバオバブを食べてくれるかな

アラン バオバブの木って、随分大きいんじゃないか？

少年 そうだよ。だから大変なんだ

アラン 何が？

少年 僕の星はとっても小さいから、バオバブの根が星を貫いちゃうんだ

アラン ほう

少年 それで、バオバブがたくさん生えると、星が破裂しちゃうんだ

アラン それは大変だな

少年 本当はバオバブが小さいうちに引っこ抜けばいいんだけどさ。これが大変なんだ。怠け者の話を知ってる？

アラン どんな話？

少年 怠け者が1人住んでた星を知ってるんだ。その人は、まだ小さいからって、バオバブの木を三本も放っておいたんだ。そしたら

アラン そしたら？

少年 絵を描いて

アラン え？

少年 その様子を話すから、絵を描いて

アラン どうして絵なんか描かなきゃいけないんだよ

少年 バオバブが危険だってことをみんなに知ってもらわなきゃいけないからさ

アラン そんなの口で言えばいいだろ

少年 百聞は一見に如かずって言うでしょ

アラン よくそんな言葉知ってるな

少年 ほら、これ。おじさんが描いてくれたヒツジの絵。この紙に描いてよ

アラン 俺は絵なんか描けないんだって

少年 大丈夫だよ。ほら

 少年はアランに紙とペンを渡す。

 アランは絵を描く。

【４】

 砂漠。昼。

 バオバブ、登場。

バオバブ バオー、バオー、バブー

 ヒツジ、登場。

ヒツジ メエ

バオバブ バオ？

ヒツジ メエ

バオバブ バオー

ヒツジ メエ

 ヒツジはバオバブの葉を食べる。

バオバブ バオッバオッ

ヒツジ メエ

バオバブ バオッバオッ

ヒツジ メエ

 アラン・ジャック、登場。

バオバブ 誰か見てる

ヒツジ そんなの気にしなくていいよ

バオバブ 恥ずかしいよ

ヒツジ 何それ。男のくせに

バオバブ 俺、性別ないんだけど

ヒツジ そうなの？

バオバブ うん

ヒツジ 気持ちの問題でしょ

バオバブ そうかな

ヒツジ さ、もっとちょうだい

バオバブ あ、大胆

アラン 何だ？　これ

ジャック 何すかね？

ヒツジ 何か用？

アラン 何やってるんだ？

ヒツジ バオバブを食べてるの

バオバブ バオー

アラン バオバブ？

ヒツジ そう。バオバブ

バオバブ バオー

ジャック ああ、バオバブっすね

バオバブ バブー

アラン お前、これ食ってたの？

ヒツジ うん

ジャック これ食えるんすか？

ヒツジ おいしいよ

アラン へえ。ジャック

ジャック 何すか？

アラン 食ってみろよ

ジャック え？

バオバブ バオ？

ヒツジ ちょっと、勝手に食べないでよ

アラン いいだろ。減るもんじゃないし

ヒツジ 減るでしょ

ジャック これ食うんすか？

アラン そうだよ

バオバブ 嫌だよ、恥ずかしいよ

ヒツジ これは私の物なの

アラン 知るか。食え

ジャック 俺っすか

アラン 他に誰がいるんだよ

ジャック でも

アラン 食えれば生き延びられるかもしれない

ジャック 腹壊したらどうするんすか

アラン その時はその時だ

ジャック 了解っす

バオバブ え？　ちょっと待って

ジャック いただきます

ヒツジ ダメだって

バオバブ バオッバオッ

 ジャックはバオバブの葉を食べる。

アラン どうだ？

ジャック 程良くまずい

アラン よし、俺も食おう

バオバブ えー、そんな、ちょっと待って

 アラン・ジャック・ヒツジはバオバブの葉を食べる。

 男、登場。

男 何やってるんだ

ヒツジ 王様

ジャック アラン先輩、見つかったっす

アラン 気にするな、ジャック

ヒツジ こいつらがバオバブを食べちゃうんだよ

男 勝手に食うなよ。ヒツジのエサなんだから

アラン 俺らだって何か食わなきゃ死んじまうんだよ

ジャック そうっすよ

バオバブ バオー

男 仕方ないな。私も食べよう

バオバブ えー、ちょっとやめてよ。恥ずかしいよ

ヒツジ え、ちょっと、私のバオバブ

男 繊維質だな

ジャック よく噛んで食うっすよ

アラン 我慢できないことはない

ヒツジ 私のバオバブなのに

男 実の方がいいんじゃないか？

アラン 実なんかあるのか？

バオバブ 実はダメだよ

ジャック これじゃないっすか

アラン 硬いな

バオバブ 実はやめて

ヒツジ 実の方が栄養が豊富だよ

男 実を食べよう

バオバブ 実はダメだって

アラン どうやって食うんだ

ジャック 割ったらいいんじゃないっすか

男 割ろう

アラン 食えなくはないな

ジャック やっぱり程良くまずいっすね

アラン 文句言うな。死ぬよりましだ

 食べ終える。

アラン さて、これで助かったと解釈していいのか？

ジャック いいんじゃないっすかね？

アラン それにしても、この状況は一体何だ？

男 何がだ？

アラン あんた、何者だ？

男 私は王様だ

アラン それは聞いた

男 それ以上の説明が必要か？

アラン 全然足りないぞ。どこから来たんだ

男 今は見えないな

アラン 別の星から来たんだろ？

男 そうだ

アラン どうやって来た

男 風に乗って

ジャック 風に？

男 そう。空を吹く風に乗って、私は旅をしている

アラン 夢でも見てるみたいだ

男 起きているのに夢を見るなんて、器用な奴だな

ジャック あ、それは俺、よくあるっすよ

アラン お前はいつもぼーっとしすぎなんだよ

ジャック 考え事っすよ

アラン よく言うよ

男 質問は以上か？

アラン どうして旅をしてるんだ？

男 旅に理由はない

アラン どこを目指している？

男 目指す場所はない

アラン いつから旅をしている？

男 覚えていない

アラン 全然ダメだな

ジャック 手応えがないっすね

男 質問は以上か？

アラン ちゃんと答えろよ

男 ちゃんと答えてるぞ

アラン どこがだよ

男 質問が悪いんだろ

ジャック ムカつく野郎っすね

アラン いつから旅してるか覚えてないって、どういうことだ

男 随分時間が経ったからな。正確には覚えていない

アラン 正確じゃなくていい

男 何年か、何十年か

ジャック 随分長いっすね

男 だから長いって言ったろ

ジャック 自分の星には帰らないんすか？

男 帰れないからこんなところをウロウロしてるんだ

アラン お前、さっき旅に理由はないって言ったじゃねえか

男 旅に理由はない。帰れない理由はある

ジャック 質問が悪いんすよ

アラン 埋めるぞ、お前

ジャック ねえ王様

男 何だ？

ジャック 王様はどうして王様なんすか？

男 王様であることに理由がいるか？

ジャック いると思うっすよ

男 お前は人間だな？

ジャック そうっす

男 なぜ人間なのか説明できるか？

ジャック できないっす

男 それと同じだ。私が王様であるのはごく当たり前のことなんだが

アラン ムカつく野郎だ

ジャック ひがみはよくないっすよ

アラン お前、どっちの味方なんだよ

ジャック 王様の星はどんな星っすか？

男 私の星には火山が三つあって、そのうちの二つが活火山だ。掃除をさぼると爆発する

ジャック 掃除？

男 火口のすすを払って綺麗にするんだよ

ジャック そんなことできるんすか？

男 できるよ

ジャック どうやってやるんすか？

男 こうやって

ジャック え？

男 火山はこれぐらい（膝の高さ）なんだ

ジャック そんなに小さいんすか？

男 私の星は本当に小さいんだ。バオバブの根っこが突き出るくらいだからな

アラン ふーん

男 その星で私はずっと1人だったんだが、ある日、花が咲いたんだ

アラン 花？

男 そう。とっても綺麗な花だった

【５】

 少年の星。

 花がいる。

花 私はどこで生まれたんだろう。種になって、風に乗ってここに飛んできたの。随分長い旅をした気がする。でもそんなことはよく覚えてない。だって私はまだ種だったんだもの。私はどこから来たんだろう。私が辿り着いたのはとっても小さな星で、ここにあるものはどれもちっぽけで、私には不似合いな星だった。こんなところで生きていくのかと思うと悲しくなったけれど、私はこの星であの人に出会った

 少年、登場。

花 何じろじろ見てるの？

少年 あ、いや、別に

花 あー眠い。もっと寝てればよかった

少年 好きなだけ寝たらいいじゃない

花 そういうわけにもいかないでしょ

少年 どうして？

花 花が咲かなかったら悲しいでしょ

少年 え？

花 何？

少年 え？　何が？

花 花が咲かなかったら悲しいでしょ

少年 あ、うん

花 だったら悲しいって言ってよ

少年 え？

花 私が起きなきゃ悲しいって、あなた言ってよ

少年 君が起きなきゃ悲しいよ

花 そうね

少年 うん

花 まだ髪もといてない。じろじろ見ないで

少年 きれいな花だね

花 どうも。あー眠い。やっぱり寝る

少年 え？

花 何？

少年 寝るの？

花 寝ちゃいけないの？

少年 いや、そういうわけじゃないけど

花 好きなだけ寝たらいいって言ったじゃない

少年 うん、言った

花 自分の言動に責任を持ったらどう？

少年 ごめん

花 お腹空いた

少年 え？

花 お腹空いた。朝ご飯は？

少年 僕が用意するの？

花 他に誰がいるの？

少年 何がいるの？

花 お水を頂戴

少年 ちょっと待ってて

 少年はジョウロを持ってくる。

少年 お水を持ってきたよ

花 かけて

少年 どうぞ

 少年は花に水をかける。

花 ありがとう。おいしいお水ね

少年 どういたしまして

花 さ、寝よう

少年 え？

花 何？

少年 起きたんじゃないの？

花 起きたわよ

少年 なのに寝るの？

花 そうよ。二度寝最高。おやすみなさい

【６】

 砂漠。夜。

 アランと少年がいる。

少年 でね、その花っていうのがものすごくわがままで、嫌な奴なんだ

アラン ふーん

少年 自分勝手で、言うことはころころ変わるし、見栄っ張りだし、僕はずいぶん困ったんだ

アラン そんなに困った奴なのか

少年 そうだよ。大変だったんだから

アラン その割には嬉しそうだな

少年 そう？

アラン ああ

少年 そんなことないよ

アラン そうか？

少年 ずっと1人だったから、話し相手ができたのは嬉しかったよ

アラン ずっと1人だったのか？

少年 そうだよ

アラン そりゃ寂しかったろ

少年 そんなことないよ。火山の掃除もしなきゃいけなかったし、バオバブが生えてこないか見張ってなきゃいけなかったし、やることはたくさんあったからね

アラン そうか

少年 僕、夕暮れが大好きなんだ

アラン 夕暮れ？

少年 見にいこうよ。日が沈むのを見たいな

アラン ちょっと待てよ。見にいくって、どこへ？

少年 どこって？

アラン 日が沈むのを見るんだったら、日が出て、日が沈むまで待たなきゃ

少年 待つの？

アラン そうだよ

少年 夕日が見えるところまで行けばいいじゃない

アラン とんでもない距離だぞ

少年 あ、そうか。この星は大きいんだ。僕の星ならちょっと移動すればすぐ夕日が見られたんだけどな

アラン 星が小さいとそんなことができるんだな

少年 僕、一日に四十四回、夕日を見たことがあるよ

アラン そりゃすごいな

少年 悲しいときって夕日を見たくなるでしょ？

アラン じゃあよっぽど悲しかったんだな

少年 ……

アラン 飛行機が飛べたら夕日を見に行けるんだけどな

少年 早く直してよ。それで一緒に夕日を見にいこう

アラン ああ、そうだな

【７】

 少年の星。

 少年と花がいる。

花 トラに襲われたらどうしよう

少年 トラ？

花 怖いでしょ、トラ

少年 トラなんかいないよ

花 分からないでしょ、そんなの

少年 よく見てよ。この星は小さいんだからトラなんかいないよ

花 いきなり出てくるかもしれないじゃない

少年 どこから？

花 地面からもりもりもりって

少年 トラはそんなことしないよ

花 爪で引っかかれたら痛いでしょうね

少年 トラは草は食べないから大丈夫だよ

花 分からないわよ。こんなにかわいいんだから、襲われるかもしれないじゃない

少年 かわいい？

花 何？

少年 何がかわいいの？

花 私が

少年 ああ、そうだね

花 あなたって本当にデリカシーがないわね

少年 ごめん

花 別に最初から期待なんかしてないけど

少年 ねえ

花 何？

少年 デリカシーって何？

花 あなたそんなことも知らないの？

少年 ごめん

花 教養がないと大人になって苦労するわよ

少年 うん。で、デリカシーって？

花 え？

少年 デリカシーって何？

花 その話はもういいの

少年 え？

花 聞くだけ野暮でしょ。そういうところがデリカシーがないの

少年 よく分からないよ

花 私はトラなんか怖くないんだけどね。襲ってきたらトゲを刺してやっつけてやるんだから

少年 そうか

花 でも私、風に吹かれるのが嫌なの

少年 え？

花 ついたてを用意してよ

少年 そんなものがいるの？

花 当然でしょ。私、繊細なのよ

少年 そうなんだ

花 夜になったら覆いガラスをかけてね。この星、とても寒いわ

少年 火山があるから暖かいと思うけどな

花 がさつなあなたと一緒にしないで

少年 ごめん

花 虫が嫌いだから虫がつかないようにしてね。それから変な雑草はすぐに抜くこと。いい？

少年 でも、悪い虫や草じゃなければそのままにしておいた方がいいよ

花 私が嫌だって言ってるの

少年 うん

花 何とかしてよ

少年 うん

花 それぐらいちゃんと考えてよね

少年 ねえ

花 何？

少年 夕日を見に行こうよ

花 は？

少年 僕、夕日が好きなんだ。一緒に行こうよ

花 どうして？

少年 夕日を見ると心が落ち着くから

花 私が落ち着いてないって言いたいの？

少年 イライラしてるからさ

花 イライラなんかしてない

少年 してるよ。何をそんなに怖がってるの？

花 何言ってるの？　勝手に決めないで

少年 じゃあ何なのさ？

花 私はね、絶望してるの。どうしてこんな星に来ちゃったんだろうって。本当はもっと大きな星がよかった。もっといろんな人にちやほやされたかった。この星はどう？　小さくて何もないし、人だってあなたがいるだけじゃない。こんな所、来るんじゃなかった

少年 ごめん

花 あなたなんか大嫌い

【８】

 砂漠。昼。

 アラン・ジャック・男・ヒツジがいる。

男 で、その花っていうのがものすごくわがままで、嫌な奴なんだ

ジャック へえ

男 自分勝手で、言うことはころころ変わるし、見栄っ張りだし、私にはあの花の気持ちが全く分からない

ジャック 大変っすね

男 そうこうしているうちに、私は旅に出ることになってしまった

ジャック 花とケンカしたからっすか？

男 そういうわけではない

ジャック でもそんな花と一緒にいるよりいいっすよ

男 そうだったんだろうか

アラン その花は今どうしてるんだ？

男 さあ？

アラン 随分無責任だな

男 別に1人で生きていけるだろ。花なんだから

アラン それもそうか

男 私はいろんな星を巡った

アラン 風に乗ってか

男 そうだ。おもしろいぞ。この空のずっと遠くへ行くんだ

ジャック どうやるんすか？

男 ふわっと軽くなるんだ

ジャック ふわっと軽く？

男 力が入ってるな。力を抜いて。体が軽くなったようなつもりで

ヒツジ （アランに）あんたもやんなよ

アラン 俺もか？

男 力んではいけない。風に身を委ねるんだ。まだ固いな

ヒツジ 歌でも歌ったら？

ジャック 先輩、歌ですって

アラン 歌えよ

ジャック 何の歌がいいっすか？

アラン 何でもいいよ

 みんなで「月の沙漠」を歌う。

男 最初に行った星には王様がいた

アラン 王様？

ジャック あんたが王様じゃないんすか？

男 ああ、だから困ったことになった

【９】

 王様が玉座に座っている。

 アラン・ジャック・男、登場。

王様 あ

アラン ん？

王様 お

ジャック ん？

王様 うん

アラン 何だ？

王様 近う寄れ

ジャック ん？

王様 近う寄れ

ジャック どうして？

ヒツジ 頭が高い。王様の御前であるぞ

アラン 何だ？　お前

ヒツジ 執事だよ

アラン ヒツジだろ

王様 よく来た、我が家来よ

ジャック え？

王様 歓迎しよう

ジャック 俺、家来なんすか？

王様 そうだな

ジャック 俺、あんたと初めて会ったっすよ

王様 そうだな

ジャック どうして俺、家来なんすか？

ヒツジ この人は王様なんだよ

ジャック 王様？

王様 そうだ

アラン やったな、家来だってよ

ジャック 嫌っすよ。大体、王様って何すか？

ヒツジ 一番偉い人だよ

ジャック そうなんすか

男 ちょっと待て

王様 何だ？

男 王様は私だ

王様 何だと？

男 私が王様だ

王様 誰だ？　お前

男 王様だ。お前こそ誰だ？

王様 私は王様だ

男 私も王様だ

アラン 面倒臭え

ジャック 面倒臭いっすね

男 お前はこの星の王様か？

王様 そうだ

男 私はこの宇宙すべての王様だ

王様 え？

男 ということは私の方が偉いな

王様 ちょっと待った。今のなし

男 待ったなし

王様 ずるいだろ、それ

ヒツジ そうだよ、ずるいよ

男 ずるくない

王様 俺だって宇宙とかそういうのの王様がいい

男 一度言ったことは変えられません

王様 くそ

ジャック おもしろいっすね

アラン 子供のケンカか

王様 誰が子供だ

アラン あ？

王様 私は子供ではない。王様だ

アラン 子供みたいだって言ってるんだよ

男 私も子供ではないぞ

アラン 分かってるよ

ヒツジ 私は執事だよ

アラン お前はヒツジだろ

男 私はこの宇宙の王様だ

王様 私は全知全能の王様だ

ヒツジ 素晴らしい

男 それ卑怯だぞ

王様 追加するのはいいんだよ

ヒツジ そうだそうだ

男 よくない

王様 いいんだよ。全知全能

男 お前、全知全能って意味分かってるのか？

王様 分かってるよ。全知全能だろ

男 説明してみろよ

ヒツジ 言ってやって

王様 全知全能だよ

男 説明になってねえよ

ヒツジ それぐらい説明しなくても分かるでしょ

王様 そうだぞ。頭悪いんじゃないか？

アラン どっちも頭悪いだろ

王様 うるさい。王様に口答えするな

男 そうだぞ。口を慎め

ヒツジ 黙ってろ、バカ

アラン ムカつく

 ジャックはあくびをする。

王様 あくびをするな

ジャック え？

王様 王様の前だぞ

ジャック うっす

王様 失礼だと思わないのか

ジャック うっす

王様 エチケット違反だ。あくび禁止

ジャック え？

男 おいおい、あくびくらいいいじゃないか

王様 どうしてお前だけ好感度を上げようとするんだよ

男 別にそんなことはしていない

王様 王様の前であくびしたら失礼だろ

男 それぐらい大目に見るのが王様じゃないのか

 アランはあくびをする。

王様 だからあくびをするなと言っているだろう

アラン あくびがうつったんだよ

ヒツジ 口答えするな

アラン あくびなんか我慢できるわけないだろ

王様 何だと？

ジャック そうっすよ。あくびは我慢できないっすよ

王様 そうか。では、あくびをしなさい

ジャック へ？

王様 私が命令する。あくびをしなさい

ジャック え、でも

アラン ジャック、あくびするなよ

ジャック え？

王様 邪魔をするな

アラン こんな奴の言うこと聞くな

王様 ほら、もう一度あくびをしなさい。命令だ

ジャック あくびなんかしようと思ってできるもんじゃないっすよ

王様 命令だぞ

ジャック 命令でも、できないものはできないっす

アラン そりゃそうだ

男 では私が命令しよう。あくびをするな

ジャック うっす

男 彼は私の命令には従うようだな

王様 たまたまだろ

男 たまたまでも何でも、お前の命令には従わなかった。よって私が本物の王様だ

王様 王様に本物も偽物もない

ジャック 俺、ずっとあくびできないっすか？

男 いいや。あくびをしたくなったらあくびをしなさい。命令だ

ジャック うっす

アラン それは都合が良すぎるだろ

男 何が？

王様 そうだ。そんなの命令とは言えない

男 命令だよ。命令するって言ったよな？

ジャック 言ったっす

王様 でもそれじゃ命令があってもなくても同じじゃないか

男 そういう命令をするのが大事なんじゃないか

王様 どういうことだ？

男 できもしない命令をしたって反感を買うだけだろ

王様 そうだな

男 それよりも相手が絶対にできる命令をすれば満足度も上がるし、こちらの信用も損なわれない

王様 なるほど

男 お前、王様なんだろ

王様 そうだ

男 王様ってのは、常に民衆の立場に立って物事を考えなければいかん

王様 そうか

男 相手の心を推し量ってこそ、真の王様になれるんだ

王様 勉強になるな

男 参考にしたまえ

王様 うむ

男 よし、では次の星へ行こう

アラン 何なんだ、一体

ジャック おもしろいっすね

【10】

 うぬぼれ男がいる。

 アラン・ジャック・男、登場。

うぬぼれ やあ

ジャック 変な帽子っすね

うぬぼれ 格好良いだろ

ジャック 変な帽子っすね

うぬぼれ もっと褒めてくれ

ジャック 話聞いてるっすか？

男 変わった男だ

アラン あんたが言うのもどうかと思うぞ

うぬぼれ これは挨拶するための帽子だ

ジャック 挨拶？

うぬぼれ 俺を褒めてくれる人に挨拶するんだ

ジャック ふーん

うぬぼれ 手を叩いてごらん、パチパチと

 ジャックは拍手をする。

 うぬぼれ男は帽子を持ち上げてお辞儀をする。

ジャック おもしろいっすね

うぬぼれ おもしろいか。じゃあもっと褒めてくれ

 ジャックは拍手をする。

 うぬぼれ男は帽子を持ち上げてお辞儀をする。

 それを何度も繰り返す。

ジャック 飽きた

うぬぼれ 飽きるなよ。もっと褒めてくれよ

ジャック そんなこと言われても

うぬぼれ お前、本当に俺に感心してるか？

ジャック してない

うぬぼれ しろよ

アラン どこに感心するんだよ

うぬぼれ どこって、いっぱいあるだろ

アラン ないよ

うぬぼれ 格好良いだろ

ジャック いや、別に

うぬぼれ それは目が腐ってるんだ

アラン 腐ってるのはお前の頭だ

うぬぼれ 俺はこの星で一番格好良くて、一番立派な服を着ていて、一番お金持ちで、一番賢い人なんだぞ

アラン でも、この星にいるのはお前だけだろ

うぬぼれ そんなことは関係ない。俺は褒められれば褒められるほど調子に乗るぞ

ジャック 褒められて伸びるタイプっすね

アラン お前、余計なことを言うな

うぬぼれ さ、褒めてくれ

ジャック え？

うぬぼれ 遠慮せずに、さあ

アラン うるせえ。何でお前なんか褒めなきゃいけないんだよ

うぬぼれ え？

男 そうだ。さっきから黙って聞いてれば調子のいいことばかり言いやがって。人生はそんなに甘くないぞ

 みんなはうぬぼれ男をけなす。

 男は帽子を奪って遠くへ投げる。

 うぬぼれ男は帽子を追って去る。

男 すっきりしたな

アラン 俺はまだ言い足りないぞ

ジャック おもしろいっすね

男 じゃあ次の星へ行こう

【11】

 呑み助がいる。

 アラン・ジャック・男、登場。

呑み助 まあ呑め

アラン お、いいね

男 おい、何やってるんだ。旅の途中だぞ

アラン 旅の途中に呑んだっていいだろ

ジャック 何すか？

呑み助 酒だよ

ジャック いいんすか？

男 ダメだ。昼間から酒を呑むなんて、ダメな大人がすることだ

アラン 頭固いな。呑めって言ってるんだから呑まなきゃダメだろ

ジャック そうっすよ

呑み助 まあ呑め

男 仕方ない、いただこう

 みんなで酒を呑む。

ジャック うまいっすね

呑み助 そうだろう

アラン いい酒だな

呑み助 もっと呑め

男 いや、もう結構

呑み助 そんなこと言わずにもっと呑め

男 じゃあもう一杯

ジャック うまいっすね

アラン あー、うまい

呑み助 もっと呑め

ジャック あざっす

アラン あざっすじゃないんだよ

男 うまかった。ありがとう

呑み助 もっと呑め

男 いや、もう結構

呑み助 そんなこと言わずにもっと呑め

男 じゃあもう一杯

アラン 結局呑むんじゃねえか

男 うるさい

ジャック おじさんは何してるんすか？

呑み助 酒呑んでるんだよ

男 どうして酒なんか呑むんすか？

呑み助 忘れたいからさ

ジャック 何を忘れたいんすか？

呑み助 恥ずかしいのを忘れるんだよ

アラン 何が恥ずかしいんだ？

呑み助 酒を呑むのが恥ずかしいんだ

 間。

呑み助 まあ飲もう

 みんなで酒を呑む。

 王様、登場。

王様 何をしている

ジャック あ、王様

男 何しに来た？

王様 どうして私を呼ばないんだ？

アラン あ？

王様 酒宴を催すときは王様を招くこと。命令だぞ

アラン 知らねえよ

男 王様が遊んでていいのか

王様 お前だって遊んでるじゃないか

男 私は旅をしているんだ

王様 じゃあ私も旅をしよう

呑み助 よく来たな。まあ呑め

王様 ありがとう

 うぬぼれ男、登場。帽子をかぶっていない。

 いつの間にか酒を呑んでいる。

アラン 何だ？　お前

うぬぼれ やあ

ジャック あれ？　何してんすか？

男 前の星にいた奴じゃないか

アラン 何やってるんだよ

うぬぼれ いや、まあ

王様 誰だ？

ジャック 変な奴っす

王様 そうか。歓迎しよう

ジャック 帽子はどうしたんすか？

うぬぼれ お前らが投げてどっか行っちゃったんだよ

男 それはすまなかったな

うぬぼれ いいんだ。反省したんだ。いつまでもこんなんじゃダメだ。大人にならなきゃって

男 その通りだ

うぬぼれ だから、大人になった証として酒を呑もうと思うんだ

呑み助 偉い。まあ呑め

うぬぼれ ありがとう

男 勝手な奴らばっかりだ

アラン 本当だよ

ジャック 随分賑やかになったっすね

呑み助 さあ呑め。呑んで嫌なことは全部忘れちまえ

男 酒を呑むと忘れるのか？

呑み助 そうだよ

男 大事なことも忘れてしまうのか？

呑み助 そうだよ

男 私は大事なことを忘れているような気がする

アラン ~~奇遇だな。~~俺もだ

王様 何を忘れたんだ？

男 私はどうして旅をしているんだろう？

アラン 俺はどうしてこんなところにいるんだ？

王様 忘れたんだからいいじゃないか

呑み助 そうそう。そのうち忘れたことさえ忘れちまうさ

男 それもそうだな

呑み助 さあ、呑もう

 みんなは酒を呑んで騒ぐ。

【12】

 少年の星。

 少年と花がいる。

花 何をしてるの？

少年 火山の掃除だよ。すすを払って綺麗にしなきゃ

花 どうして？

少年 火山がつまると爆発するんだよ

花 いつもより念入りじゃない？

少年 そう？

 少年は辺りを見回す。

花 今度はどうしたの？

少年 バオバブの芽があったら抜かなきゃ

花 うん

少年 バオバブが大きくなったら根が星を貫いちゃうからね

花 うん

 少年はバオバブの芽を抜く。

少年 これでよし

花 随分念入りね

少年 そうだね

 間。

少年 さよなら

 間。

少年 さよなら

花 行っちゃうの？

少年 うん

花 ごめんなさい

少年 え？

花 私が悪かったんでしょ？

少年 そんなこと……

花 元気でね

少年 怒らないの？

花 どうして？

少年 だって僕、もう行っちゃうんだよ

花 だってそれは仕方のないことでしょ

少年 そうだけど

花 私ね、あなたのことが好きなの

少年 え？

花 知ってた？

 間。

少年 覆いガラスをかけた方がいいかな

花 そんなものいらない

少年 でも、風が吹いてきたら

花 大丈夫。私は花なんだから、風に吹かれるのが当たり前なの

少年 でも、獣が来たら

花 獣なんかいないでしょ

少年 虫だってつくよ

花 蝶々と友達になろうと思ったら、毛虫の二匹や三匹は我慢しなきゃ。これから、誰かが私を訪ねてきてくれるでしょ。しっかりとお迎えしなきゃ。大きな獣が来たって大丈夫。私にはトゲもあるんだから

少年 ごめん

花 謝らないで

少年 うん

花 さよなら

少年 さよなら

【13】

 地理学者がいる。

地理学者 えー、毎度ばかばかしいお話でございます。町の若い衆が集まって怖いものは何かと言い合っている。「俺は虫が嫌いで、ゴキブリなんかダメだね。」「いや、俺はお化けが怖いんだ。」「やっぱり怖いのはヘビだな。」「俺はカミさんが怖い。」「よく言うよ。お前はどうだ。」「隣のカミさんが怖い。」「お前、俺ん家の隣じゃねえか。」そんなことを言って笑っていると、一人の男が走り込んできた。「どうした、そんなに慌てて。」「いや、飛行機が。」「飛行機？」「飛行機が飛んで来たんで、逃げて来た。」「飛行機ぐらいでどうして逃げるんだ。」「俺は飛行機が怖いんだ。」「どうして怖いんだ。」「とにかく怖い。」何だかやたら飛行機を怖がるんで、みんなおもしろがってそいつを飛行機に乗せてやることにした。「俺ん家に飛行機があるから来い。」「嫌だ、やめてくれ。」そんな風にして飛行機に押し込んだら、なんとそいつは飛行機を運転して飛び去ってしまった。「俺の飛行機が盗まれた。」騙されたと知っても後の祭り。飛行機を運転しながらそいつが一言「次はロケットが怖いってことにしようかな。」お後がよろしいようで〔※４〕

 実業家・点灯人・地理学者がいる。

 実業家は数を数えている。

 点灯人は街灯の明かりをつけたり消したりしている。

 地理学者は地図を描いている。

 男、登場。

男 あれ？　おい、みんな、どこへ行ったんだ？　おーい。おかしいな。さっきまで一緒だったのに。はぐれたのか？　仕方ない奴らだ。おーい、おーい

点灯人 どうしたんですか？

男 人を捜してるんだ

点灯人 どんな人ですか？

男 男が二人。飛行機に乗る奴らだ

点灯人 見てませんよ

男 そうか。おかしいな。おーい、どこへ行ったんだ。おーい

実業家 うるさいな。邪魔をするな

男 何だお前は

実業家 それはこっちの台詞だ。一体何なんだ、お前は

男 私は旅をしている

実業家 私は仕事をしている。とにかく俺は仕事を遮られるのが嫌なんだ

男 そりゃ悪いことをした

実業家 そう思うなら邪魔しないでくれ。一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六

地理学者 今何時（なんどき）だい？

実業家 九時だよ。十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九

地理学者 今何時だい？

実業家 九時だって言ってるだろ。十、十一、十二、十三、十四、十五、十六……

男 数が戻ってるじゃないか

実業家 しまった。またやっちまった

男 何でそうなるんだ？

実業家 おい、お前、「今何時だい？」って言うんじゃない

地理学者 ダメなんだよ。数を数えてる人がいたら「今何時だい？」って言っちゃうんだ

実業家 やめろ

男 何なんだ？

地理学者 「時そば」っていう有名な話だ。知らないのか？〔※５〕

男 知らないな

実業家 そば代を払うときに時間を聞いてうまいこと数をごまかすんだ

男 どうやって？

実業家 いやあ、食った食った。いくらだい？

地理学者 へえ、十六文です

実業家 銭が細けえんだ。お前さんの手に置くから、手をだしてくんねえ

地理学者 へい。どうぞ

実業家 一、二、三、四、五、六、七、八、今何時だい？

地理学者 えー、九つで

実業家 十、十一、十二、十三、十四、十五、十六。確かに払ったな

地理学者 確かに頂きました。ってな具合なんだ

男 なるほど

実業家 だから「今何時だい？」って言われたら数が分からなくなるんだよ

地理学者 おもしろいだろう

男 バカじゃないのか

点灯人 結局、いくつになったんですか？

実業家 分からん

点灯人 ですよね

実業家 数えてみよう

男 何を数えているんだ？

実業家 星だよ

男 星を数えるなんて、そんなことできるのか？

実業家 だから大変な仕事なんだ

男 君は天文学者か？

実業家 いいや

男 じゃあ星を数えてどうするんだ？

実業家 俺が見つけた星は俺の物だ

点灯人 すごいですね

男 随分乱暴な理屈だな

実業家 そうでもないぞ。ダイヤモンドを掘り出したら誰の物になる？

点灯夫 掘り出した人ですね

実業家 そうだろ。陸地だってそうだ。誰の物でもない島を見つけたら、それは見つけた人の物だ。星だって、誰の物でもない星は見つけた人の物なんだよ

点灯人 私も新しい星が欲しいです

実業家 見つければいいじゃないか

点灯人 はい、そうします

男 どうして新しい星が欲しいんだ？

点灯人 私の星は小さすぎるんです

地理学者 確かにそうだ。君の星は小さすぎる

男 私の星だって小さいぞ

地理学者 いやいや、この星は本当に小さいんだ

点灯人 おかげで困ってるんです

男 君は何をしてるんだ？

点灯人 街灯の明かりをつけてるんです

男 どうしてすぐ消すんだ？

点灯人 そういう命令なんです

男 命令？

点灯人 すごく大変なんですよ。朝になったら明かりを消して、夕方になったら明かりをつけるんです

男 それの何が大変なんだ？

点灯人 昔はよかったんです。昼間は休めたし、夜は眠りました

男 命令が変わったのか？

点灯人 命令は変わってません。命令が変わらないから困ってるんです

男 どういうことだ？

地理学者 この星はおもしろいぞ。どんどん早く回るようになってるんだ

点灯人 今じゃこの星は一分間で一回りするんですよ。だから私は全然休めなくなりました

男 一分間が一日なのか。それは大変だ

点灯人 大変なんです

男 こうしたらどうだろう？

点灯人 どうするんです？

男 この星はとても小さいからすぐに一周できるだろう。歩き続ければ昼間のままになるぞ

点灯人 でもそれじゃ眠れないでしょう？

男 そうか

点灯人 私は眠りたいんです

男 分かった。じゃあ眠りなさい

点灯人 え？

男 好きなだけ眠りなさい。もう街灯の明かりをつけたり消したりしなくてよろしい

点灯人 でも命令が

男 これは私の命令だ。私は王様だから、新しい命令をする

点灯人 あなた、王様なんですか

男 そうだ

点灯人 ありがとうございます。それじゃ、お言葉に甘えて眠ることにします

男 いい夢を見なさい

 点灯夫は眠る。

実業家 分かったぞ。五億百六十二万二千七百三十一だ

男 五億？

地理学者 そんなにあるのか？

実業家 そうだな

地理学者 それだけの地図を作るのは大変だな

男 君は何者だ？

地理学者 私は地理学者なんだ。いろんな星の記録を取っている。君の星はどれだ？

男 あれだ

地理学者 どんな星だ？

男 私の星は小さな星で、火山が三つある。活火山が二つ、休火山が一つ。でもいつ爆発するか分からない

地理学者 そりゃ分からん

男 それから花が一つある

地理学者 花のことはいい

男 どうして？

地理学者 私は花のことなんか書かない

男 とっても美しい花なんだ

地理学者 すぐ変わってしまうことを書くわけにはいかないんだ

男 変わる？

地理学者 ああ

男 休火山だって目を覚ますかもしれないぞ

地理学者 火山が眠っていようが起きていようが関係ない。山がそこにあるということが大切なんだ

男 じゃあ花は？

地理学者 花はすぐ消えてしまうだろう

男 そうだな

地理学者 報告は以上かね？

男 ああ

実業家 どれがあんたの星だって？

男 あれだ

実業家 あの星はもう俺が記録した。俺の星だ

男 何だって？

実業家 あれだろ？　Ｂ６１２。ここに記録してある

男 それがどうした。あれは私が住んでいた星だ。私の星だ

実業家 君はその星を支配しているのだろう

男 支配しているつもりはない

実業家 それが問題なんじゃない。俺が言いたいのは、支配と所有は違う、ということだ

男 どういうことだ？

実業家 借家だって住めばその家の主になる

男 私の星が借り物だと言いたいのか

実業家 貸した覚えはないがな

男 ふざけるな。それは君の勝手な理屈だ

実業家 勝手なのはお互い様だ。君はその星に勝手に住んでいる。違うか？

男 他には誰もいないんだ。許可を得る必要はない

実業家 そんなの誰が決めたんだ

男 私は誰にも迷惑をかけていない

実業家 俺だってそうさ。俺は星を管理しているだけだ

男 管理？

実業家 俺は星がいくつあるのか管理している

男 そしてそれがお前の物になるのか

実業家 そうだ

男 どうやって証明するんだ

実業家 銀行に預けられるよ

男 銀行？

実業家 持っている星の数を紙に書いておくんだ。それを引き出しの中に入れて鍵をかけておくのさ

男 それだけか？

実業家 それでいいんだ

男 星を銀行に預ける。おもしろい。なかなか詩的な表現だな。だが無意味だ

実業家 何だと？

男 私には支配とか所有とか全く分からないが、君には私の星の大切さは分からない。君にとっては五億ある星の一つだろうが、私にとってはたった一つの星なんだ

実業家 それは俺には全く興味のないことだ。俺は星を所有する。だからあの星も、あの星も、あの星も、あの星も、全部俺の物だ。そんなに大事ならさっさとその星に帰ったらどうだ

男 帰れないんだ

実業家 帰れないんだったら、もうあんたの星じゃないな

 点灯人は起きる。

点灯人 やっぱりいいです

男 どうした？

点灯人 これは私の仕事だから

男 だからそんな仕事はしなくていいんだ

点灯人 そんなわけにはいかないんですよ。たとえば、灯台の明かりが消えたら困るでしょ？

男 これは灯台ではない

点灯人 分かってます。でも誰かがこの光を見てるんです。私がこの明かりをつけて、それでこの星は光ってるんです。そうやってこの星は誰かに見てもらうことができるんです

男 でも

点灯人 だから私は仕事を続けます

男 君は偉いな

点灯人 そんなことありません

男 これはこの星の光なのか

点灯人 自分で光ってる星もあります。でも、誰かが照らしてる星もあります

男 でも、こうやってついたり消えたりしてると、変な星だと思われるかもしれないな

点灯人 そうかもしれません。でも、きっと

男 きっと？

点灯人 この星は瞬いて見えるかもしれません

男 そうかもしれないな

【14】

 砂漠。昼。

 アランとジャックがいる。

アラン あれ？

ジャック どうしたんすか？

アラン どうして誰もいないんだ？

ジャック 何言ってるんすか？

アラン あのおっさんは？

ジャック え？

アラン あと、ヒツジとかバオバブとか

ジャック 先輩、大丈夫っすか？

アラン 一緒にバオバブ食べたじゃないか

ジャック バオバブ？

アラン バオバブの木が歩いてきて、一緒に食べただろ

ジャック 先輩、本当に大丈夫っすか？

アラン 夢だったのか？

ジャック 先輩

アラン ん？

ジャック もう水がないっす

アラン そうか

ジャック 食料もないっす

アラン そうか

ジャック 飛行機、直らないっす

アラン そうか

ジャック ごめんなさい

アラン 何、謝ってるんだよ

ジャック 俺、整備士なんすよ

アラン 知ってるよ

ジャック 整備士なのに、飛行機直せないんすよ

アラン 仕方ないだろ

ジャック さっさと飛行機諦めて、歩いてた方がよかったかもしれないっすね

アラン そしたら砂漠で野垂れ死ぬだけだ

ジャック すみませんでした

アラン 過去形にするな

ジャック でも

アラン 希望を捨てるな

ジャック うっす

アラン 水が飲みてえ

ジャック そうっすね

アラン 水が飲みてえ

ジャック そうっすね

アラン 冷たい水を飲みてえ

ジャック 小便でも飲みますか？

アラン 小便なんか出ないだろ

ジャック そうっすね。あ

アラン 何だ？

ジャック ほら、あれ

アラン どれ？

ジャック 湖っすよね

アラン え？

ジャック ほら、光ってるっすよ。湖っすよ

アラン おい、ちょっと待て

ジャック 行ってくるっす

アラン 待て、あれは

ジャック 先輩、休んでてください。水くんできますから

アラン ジャック、行くな

ジャック 大丈夫っすよ。あの距離ならすぐっす

アラン おい、待て。ジャック、ジャック

 ジャック、退場。

アラン あれは蜃気楼だ。バカ野郎

 間。

アラン 1人になっちまった

 間。

アラン 謝らなきゃいけないのは俺の方だ。パイロットは俺だ。落ちたのは俺だ。俺はお前の命に責任を持たなきゃいけない。ごめんな、ジャック。落ちたのは俺なんだ。ごめんな、ジャック

【15】

 少年がいる。

 男、登場。

少年 はじめまして

男 はじめまして

少年 あなたは誰？

男 私は王様だ

少年 人を捜してるんでしょ？

男 どうして知っている？

少年 助けてあげて

男 え？

少年 あの人達は今、大変な目に遭ってる

男 ああ

少年 あの人達は僕を助けてくれたんだ。だから今度は僕達が助けてあげなきゃ

男 僕達？

少年 うん、僕達

男 君は誰だ？

少年 僕は僕だよ

男 君を見ていると、何だか悲しくなる

少年 うん、そうだね

男 でも、大切なことを思い出せそうだ

少年 大切なことは目に見えないんだよ

男 大切なことは目に見えない

少年 さあ、行こう

男 ああ

【16】

 男がいる。

 キツネ、登場。

キツネ こんにちは

男 こんにちは。誰だ？

キツネ 僕だよ

男 どこにいるんだ？

キツネ 気を付けて

男 君は誰だ？

キツネ キツネだよ

男 キツネ？

キツネ そう

男 気を付けるって、何に？

キツネ ヘビがいるんだ

 ヘビ、登場。

ヘビ シャー

男 あれがヘビか？

キツネ ヘビに見つかると丸呑みにされるよ

男 もう見つかった

キツネ ヘビには毒もあるんだ

男 どうすればいい？

キツネ 逃げよう

ヘビ 逃げなくていい

男 え？

ヘビ 別に食ったりしないさ

男 そうか

キツネ 本当に？

ヘビ ああ、本当だ

男 ここは何という星だ？

ヘビ 地球だよ

男 何もないな

ヘビ 砂漠だからな

男 地球には誰もいないの？

ヘビ 地球は大きいんだ。砂漠には誰もいない

男 人はどこにいるんだ？

ヘビ 人は街にいる

男 山や木は？

ヘビ あるよ。いろんなところがある

男 砂漠というのは少し寂しいところだな

ヘビ 人間達のところにいたって、やっぱり寂しいさ

男 君は変な動物だな

ヘビ そうか？

男 手もないし、足もないし、不便じゃないのか？

ヘビ 不便なんかないさ

男 そんな体じゃ、そう遠くへは行けないだろ

ヘビ 自分は遠くへ行けなくても、あんたを遠くに運んでいくことはできる

男 どういうことだ？

ヘビ 俺は相手を土に帰してやるんだ

男 土に？

ヘビ 命は土に帰る

男 よく分からない。謎々みたいだ

ヘビ じゃあ謎々だ。朝は四本足、昼は二本足、夜は三本足、なーんだ？

キツネ タコ

ヘビ ブー。何でタコなんだよ

キツネ 四本足と、二本足と、三本足を足して、九本だから、タコじゃない

男 答えは人間だ

ヘビ 正解

キツネ どうして？

男 人間は生まれた頃は四つん這いで、それから二本足で歩くようになる。そして年をとったら杖をついて三本足になる

キツネ へー

ヘビ では次の問題。かけたり、たったり、つぶしたりするものはなーんだ？

キツネ コロッケ

ヘビ ブー。何でコロッケなんだ？

キツネ じゃがいもを潰して、ソースをかける

ヘビ たつのは？

キツネ コロッケ

ヘビ コロッケは立たない

男 時間だ

ヘビ 正解

キツネ どうして？

男 時間をかける、時間が経つ、時間を潰す

キツネ へー

ヘビ じゃあ次の問題だ

男 なあ、これは何なんだ？

ヘビ いいから答えろよ。あなたは誰ですか？

男 私？

キツネ 僕はキツネだ

男 私は……誰だ？

ヘビ よく考えるんだな

男 星が光ってる

ヘビ そうだな

男 私はあの星へ帰りたいんだ

ヘビ あんた、よその星から来たのか？

男 そうだよ

キツネ どの星？

男 あの星だよ

ヘビ 綺麗な星だ

キツネ 帰れないの？

男 帰れない

ヘビ じゃあ俺があんたをあの星に帰してやる

男 本当か？

ヘビ ああ

男 ありがとう。そうだ、二人の男を捜しているんだが、どこにいるか知らないか？

ヘビ この砂漠のどこかにいるよ

男 そうか

ヘビ 捜すのか？

男 ああ

ヘビ 見つけられるかな？

男 どうして？

ヘビ 砂漠で人を捜すなんて、あの星空から誰かを見つけ出すようなもんだ

男 星は五億ぐらいあるらしいぞ

ヘビ もっとあるんじゃないか？

男 たとえそうだとしても、私は彼らを見つけなければならない

ヘビ そうか。じゃあ、またな

 ヘビ、退場。

キツネ 行った？

男 ああ、行ったよ

キツネ ヘビは怖いな

男 そうだな。こっちへおいで

キツネ それはダメだよ

男 どうして？

キツネ あんた人間だろ？

男 そうだよ

キツネ 人間に飼い慣らされるのはごめんだよ

男 別に飼い慣らそうなんて思ってない

キツネ 僕はあくまで対等に仲良くなりたい

男 じゃあそうしたらいい

キツネ そう簡単にはいかないよ

男 どうして？

キツネ そもそも仲良くなるってどういうことだと思う？

男 そんなこと考えたこともなかったな

キツネ いいかい。僕の目から見れば、あんたはまだ他の人間と変わらない。そこらにいる人間のうちの一人だ

男 ああ

キツネ あんたから見れば僕だってそうだろ。たくさんいる他のキツネと変わらない

男 そうだな

キツネ 仲良くなるってのは、そうじゃなくて、かけがえのない存在になるってことなんじゃないかな

男 かけがえのない存在

キツネ 何？

男 いい言葉だ

キツネ 最初は、俺から少し離れて座るんだ

男 こうか？

 男はキツネと少し離れて座る。

キツネ そう。僕はあんたをちょいちょい横目で見る

男 うん

キツネ あんたは何にも言っちゃいけない

男 何も？

キツネ 言葉っていうのは勘違いの元だから

男 そうか

キツネ 一日一日と経っていくうちに、あんたは段々近いところへ座るようになる

男 ああ

 男はキツネの近くに座る。

キツネ いつも同じ時刻の方がいい。あんたが午後四時にやってくるとすると、僕は三時にはもう嬉しくなってくる。時間が近づけばいてもたってもいられなくなる

男 何だか面倒だな

キツネ あせっちゃいけないんだ

男 会いたいときに会えばいいじゃないか

キツネ いつでも会いたいときに会ってると、いつあんたを待つ気持ちになればいいか分からないだろ。決まりがいるんだよ

男 決まり？

キツネ 約束と言ってもいい。約束があるから特別な時間になるんだ。他の時間とは違う時間になるんだ。誕生日だってそうだろ。誕生日は一年に一日だから特別なんだ。毎日誕生日だったら全然特別じゃない

男 そうだな

キツネ だから約束をしよう

男 約束？

キツネ また会えるかな？

男 ああ、また会おう

キツネ ありがとう

男 こんなに簡単なことだったのか

キツネ え？

男 約束しておけばよかった

キツネ 何を？

男 会いたい人がいるんだ。私は彼らを助けなければならない

キツネ ああ

男 それから、花を置いてきた

キツネ 花？

男 私の星に咲いた花だ

キツネ 大切な花だったんだね

男 もう一度会えるだろうか

キツネ 会えるよ。僕達だって約束したじゃない。また会おうって

男 ああ

キツネ 会いたいと思えばきっと会える。そうだよね？

男 ああ。ありがとう

【17】

 砂漠。夜。

 アランがいる。

 少年、登場。

少年 見つけた

アラン お前か

少年 大丈夫？

アラン 大丈夫じゃねえな

少年 ありがとう

アラン え？

少年 待っててくれたんでしょ？

アラン そんなつもりはないよ

少年 それでもいいよ

アラン もうダメだと思ってたんだ

少年 大丈夫。きっと助かるよ

アラン こんなことになっても考えるのは飛ぶことだ

少年 うん

アラン 腹が減ったとか水が飲みたいとか色々考えた

少年 うん

アラン 家族のこととか故郷のこととか帰りたいとか色々考えた。でも結局考えたのは飛ぶことだ

少年 うん

アラン 飛びてえ。空を飛びてえ。俺は空を飛ぶために生まれてきたんだ

少年 飛行機は直るよ

アラン だといいな

少年 きっと大丈夫

アラン これも夢かな

少年 眠っていいよ。眠って夢を見て、起きたら誰かが助けに来てくれる

アラン ああ

少年 僕はもう君のことを助けられないけど、安心して眠っていいよ

アラン ああ

少年 おやすみ

 少年、退場。

 男、登場。

 男はアランに水を飲ませる。

男 大丈夫か？

アラン 生き返った

男 それはよかった

アラン うまいな、水は。最高だ

男 人生で一番うまい水だ

アラン ありがとう

男 まだ死ぬなよ

アラン それはどうかな

男 もう一人はどうした？

アラン 蜃気楼を見つけてどっか行っちまった

男 そうか

 間。

男 君はどうして飛行機に乗ってるんだ？

アラン そんなの、乗りたいからに決まってるだろ

男 どうして？

アラン どうしてって？

男 どうして乗りたいんだ？

アラン 考えたことないな

男 いつから乗りたいと思ってたんだ？

アラン 子供の頃から

男 へえ。乗ってみてどうだった？

アラン 最悪だな

男 どうして？

アラン どうしてばっかりだな

男 乗りたかったんだろ？

アラン そんなにいいもんじゃないぞ。機体はガタガタ震えて乗り心地は悪いし、寒いし、体によくない。いつ死ぬか分からないしな。事故イコール死だ

男 じゃあどうして乗るんだ？

アラン あの景色を見たらやめられるわけないだろ。地上にはいつくばってたら絶対に見られない景色だ

男 へえ

アラン あんたはどうなんだ？

男 何が？

アラン どうして旅をしてるんだ？

男 どうしてだろうな

アラン 何十年も経つんだろ？

男 ああ

アラン 自分の星へは帰らないのか？

男 帰れないんだ

アラン どうして？

男 どうしても

アラン そうか

男 星を出たときはまだ子供だった

アラン あんたが子供の頃って想像できないな

男 そうだな

アラン そんなに長い間フラフラしてるのか

男 別にフラフラしてるわけじゃない

アラン 家族は？

男 いない。ずっと一人だ

アラン ふーん

男 君はどうなんだ。家族は

アラン いるよ。妻もいるし娘もいる

男 ほう

アラン 仕事で何日も家を空けるからな。いるかいないか分からない親父だ

男 家族は帰りを待ってるんだろ？

アラン ああ

男 じゃあ帰らなきゃな

アラン 帰ってこない覚悟はしてる

男 え？

アラン 俺が帰ってこないっていう覚悟はしてるはずだよ

男 それは君の勝手な思い込みだ

アラン そう断言してくれるな。そう思わないと飛んでられないんだ

男 そういうものか

アラン あんただって、待ってる花がいたんだろ？

男 待っているわけではない

アラン どうして花を置いていったんだ？

男 私には愛が分からなかった

アラン 今は分かるのか？

男 いや

アラン そうか

男 あんたには分かるか？　愛

アラン 分かるさ

男 そうか。羨ましいな

アラン あんたは自分の星へ帰れよ

男 帰れないと言っただろう

アラン それはあんたの勝手な思い込みだ

男 同じ言葉を返したな。生意気な

アラン 他人の方がよく分かることがある

男 自分のことはよく分からない

アラン そうだな

男 もう一人の男を捜そう

アラン 助かるかな

男 助けるさ

アラン よろしく頼む

【18】

 少年の星。

 花がいる。

 ヒツジ、登場。

ヒツジ おはよう

花 おはよう

ヒツジ 今日も良い天気だね

花 そうね

ヒツジ おめかししてるの？

花 そうよ

ヒツジ どうして？

花 あの人が帰って来る気がするの？

ヒツジ 本当？

花 だからおめかししなきゃ

ヒツジ 随分長い旅だったね

花 まだ分からないよ

ヒツジ きっと帰って来るよ

花 そうね

 バオバブ、登場。

バオバブ バオー

ヒツジ あ、バオバブだ

バオバブ バオ？

花 食べちゃって

ヒツジ 分かった

バオバブ バオー

ヒツジ 待て

 バオバブ・ヒツジ、退場。

花 あれからどれくらい経ったんだろう。あの人がいなくなってどれくらい経ったんだろう。夜になって星が出るとあの人のことを思い出すの。あの光ってる星のどれかにあの人がいると思うと、安心して眠れる。ひどいことを言ってごめんなさい。この星はとっても素敵な星。嫌いだって言ってごめんなさい。本当はあなたのこと大好きなの。引き止められなくてごめんなさい。本当は行かないでって言いたかった。私は待ってるから、帰ってきてね

【19】

 砂漠。昼。

 アラン・ジャック・男がいる。

 ジャックは飛行機を整備している。

アラン 俺はさ、ずっと空を飛びたかったんだよ

男 ああ

アラン でも、いざ飛んでみると降りるのが嫌でさ。いつまでも飛んでるわけにはいかないだろ

男 ああ

アラン いつか飛べなくなる

男 私はね、大人になりたかったんだ

アラン 大人に？

男 子供でいたって何もできないから、早く大人になりたかった

アラン なってみてどう？

男 あんまり変わってないな

アラン そうか？

男 そうじゃないか？

アラン 見た目は随分変わってるんじゃないのか？

男 それはお互い様だろ

アラン 俺は昔からこんなんだよ

男 私だってこんなんだ

 飛行機からジャックが声をかける。

ジャック エンジンかかったっすよ

アラン よし、行くか

男 私も乗せてくれよ

アラン え？

男 飛行機、ぜひ乗ってみたい

アラン あれ、二人乗りなんだけど

男 何とかなるだろ

アラン 大体、どこに行くんだよ

男 せっかくだ。私の星まで送ってくれ

アラン あ？

男 飛ぶんだろ？

アラン ああ、いいよ

ジャック 早く行くっすよ

アラン うるせえ。大人しく待ってろ

ジャック せっかく直ったのに

男 よろしく頼む

ジャック え？　おじさんも乗るんすか？

アラン よし、行くぞ

ジャック 定員オーバーっすよ

男 つめろ

ジャック 無理っす

アラン じゃあお前降りろ

ジャック 嫌っす

男 狭いな

ジャック 当たり前じゃないっすか

男 楽しみだ

ジャック どこまで行くっすか？

アラン どこまでも行くんだよ

 飛行機が飛び立つ。

 花、登場。

 飛行機を見送る。

 少年、登場。

 少年と花が出会う。

 終わり。

【参考】

原作　『星の王子さま』サン＝テグジュペリ

※１月の沙漠

 童謡。作詞・加藤まさを、作曲・佐々木すぐる。

※２バルタン星人

 特撮テレビ番組「ウルトラシリーズ」に登場する架空の宇宙人。

※３ピグモン

 特撮テレビ番組「ウルトラシリーズ」に登場する架空の小型怪獣。

※４飛行機こわい

 古典落語「まんじゅうこわい」をもじったもの。

※５時そば

 古典落語。